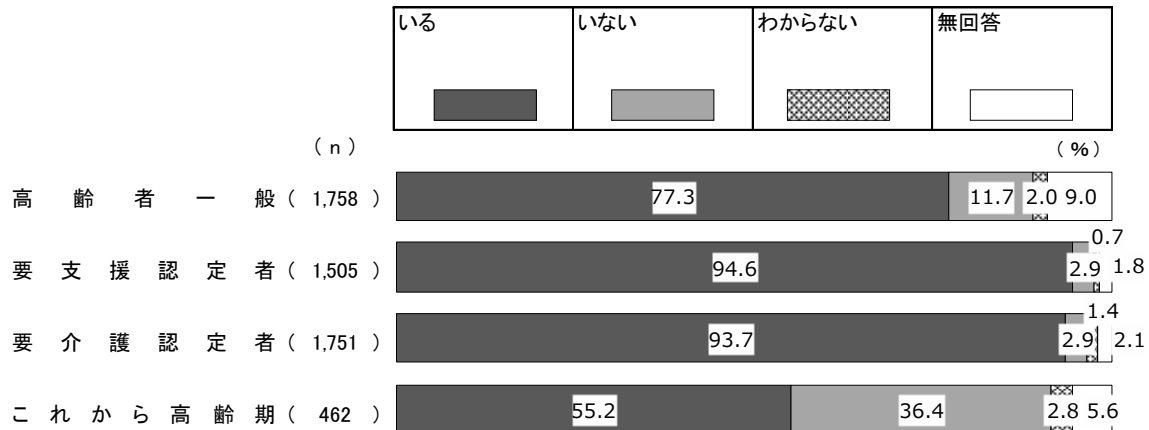


6. 医療・在宅療養

(1) かかりつけ医等の状況

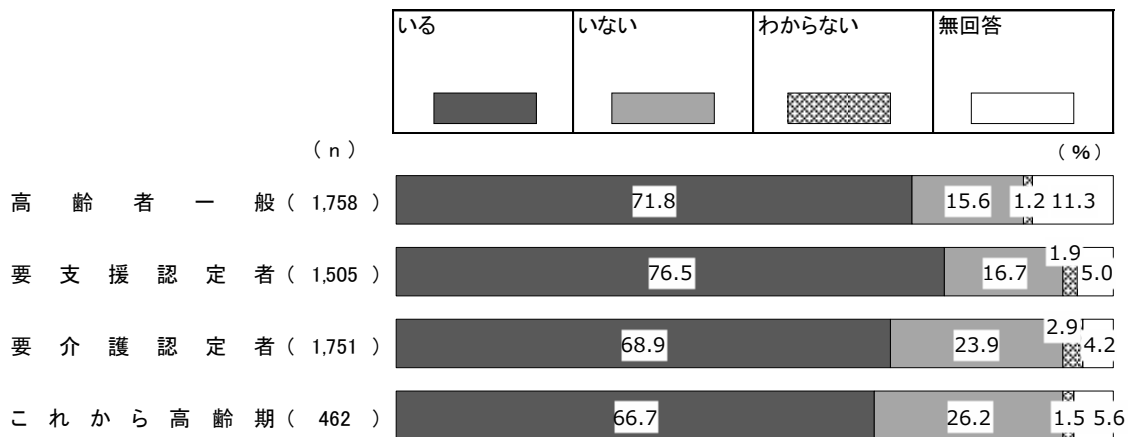
① かかりつけ医の有無

○「いる」は、高齢者一般で77.3%、要支援認定者で94.6%、要介護認定者で93.7%、これから高齢期で55.2%となっている。



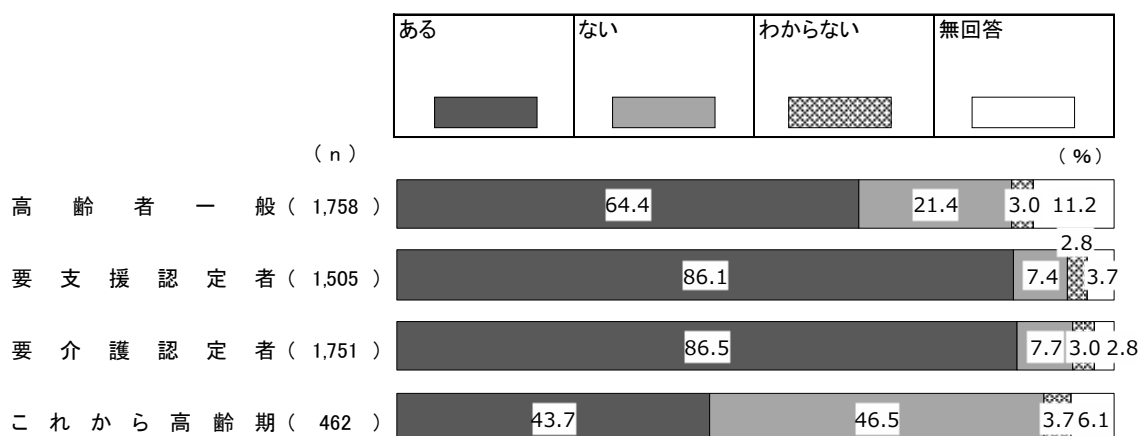
② かかりつけ歯科医の有無

○「いる」は、高齢者一般で71.8%、要支援認定者で76.5%、要介護認定者で68.9%、これから高齢期で66.7%となっている。



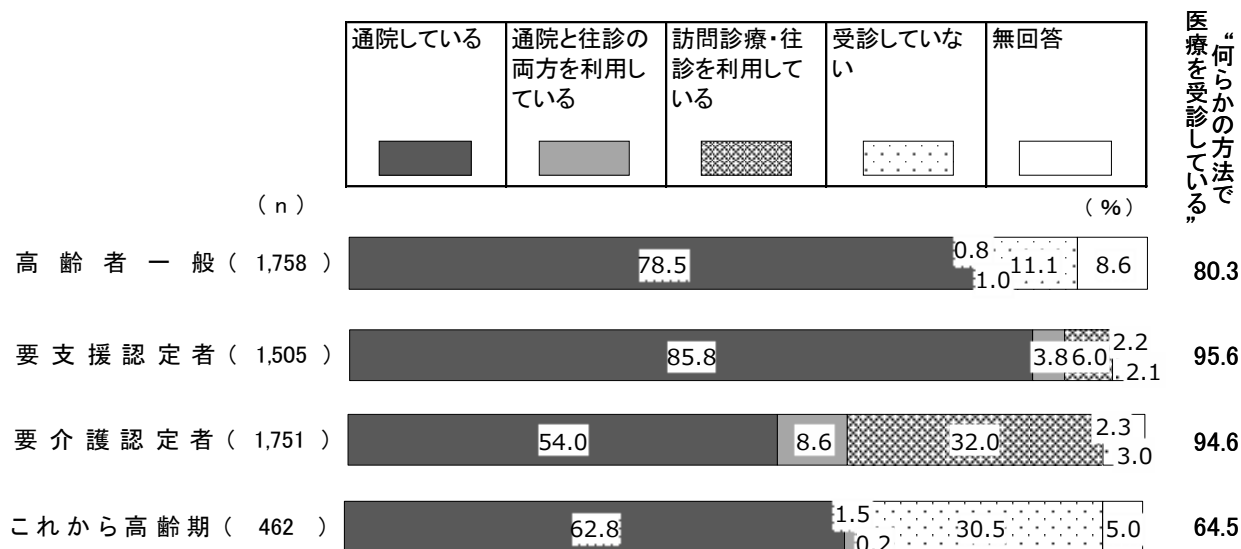
③かかりつけ薬局の有無

○「ある」は、高齢者一般で64.4%、要支援認定者で86.1%、要介護認定者で86.5%、これから高齢期で43.7%となっている。



(2) 医療の受診形態

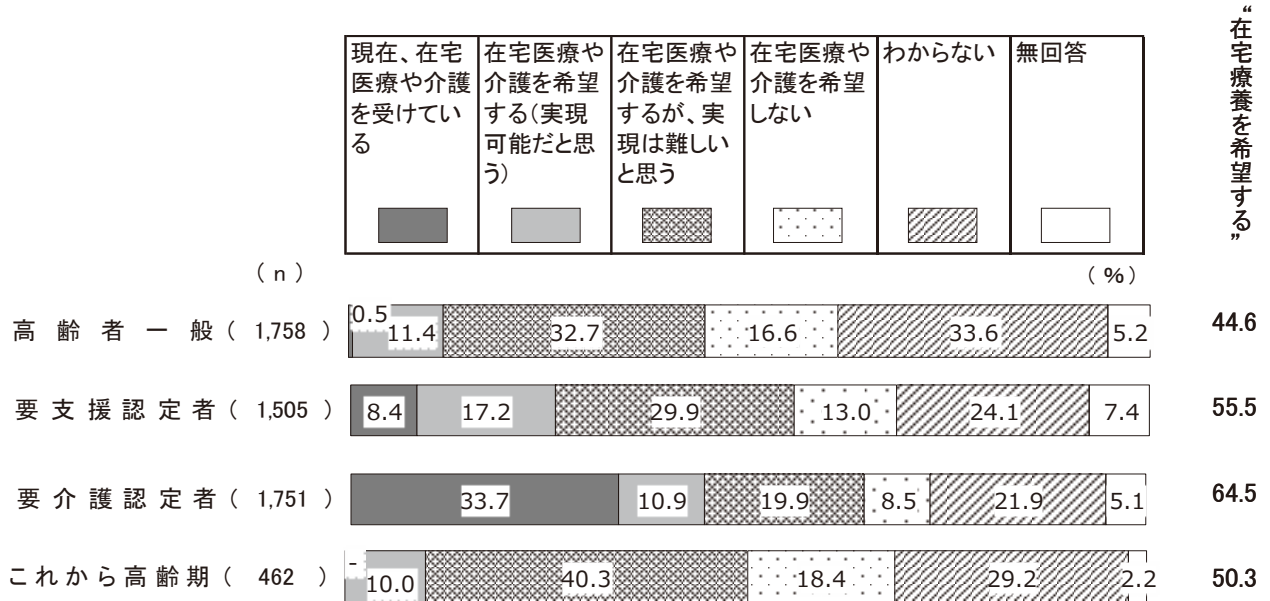
○“何らかの方法で医療を受診している”（「通院している」、「通院と往診の両方を利用している」、「訪問診療・往診を利用している」の合計）は、高齢者一般で80.3%、要支援認定者で95.6%、要介護認定者で94.6%、これから高齢期で64.5%となっている。



(3) 在宅療養

①在宅療養の希望と実現可能性

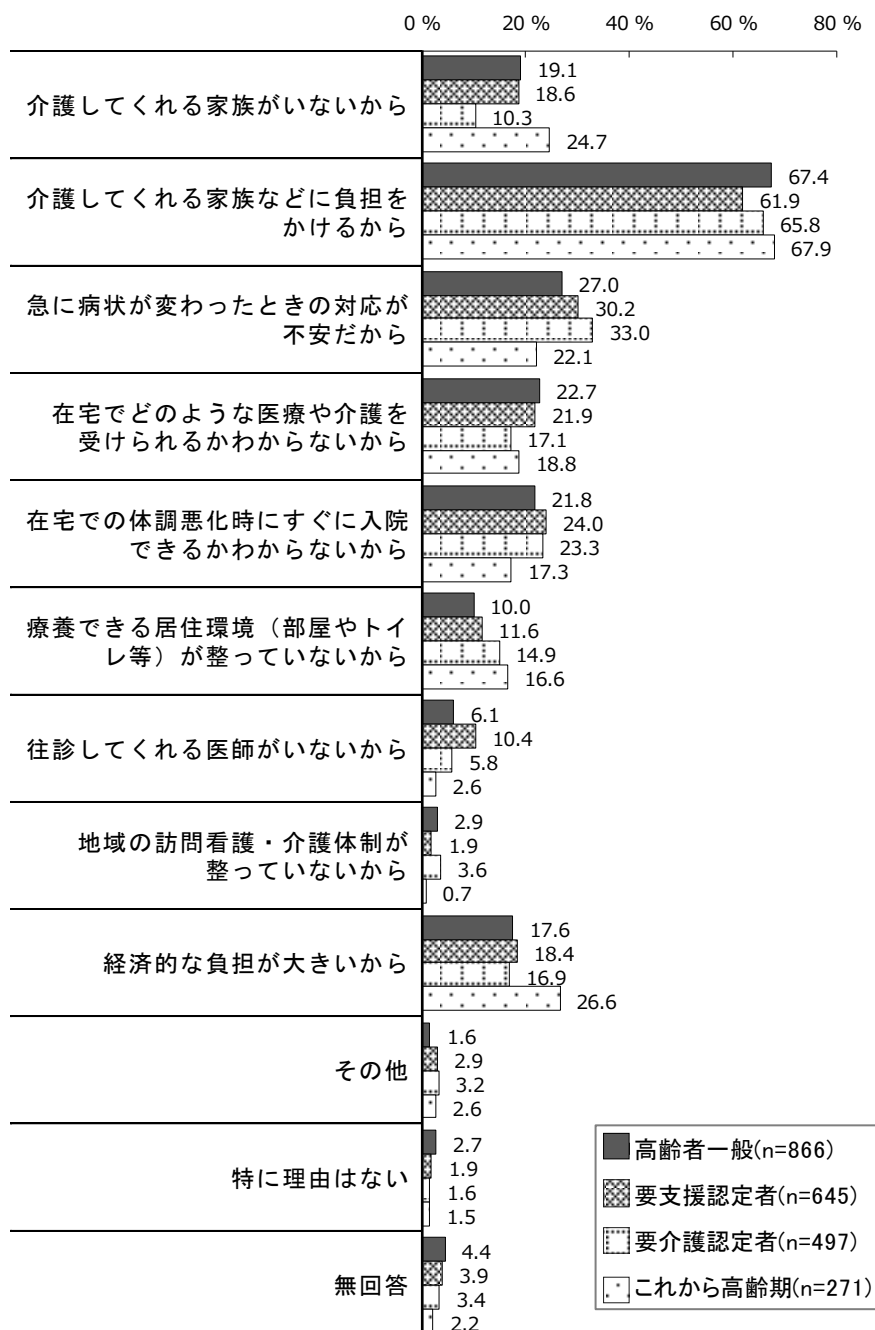
○脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期療養が必要になった場合、病院などへの入院・入所はしないで、自宅で生活したいかどうか聞いたところ、“在宅療養を希望する”（「現在、在宅医療や介護を受けている」、「在宅医療や介護を希望する（実現可能だと思う）」、「在宅医療や介護を希望するが、実現は難しいと思う」の合計）と回答した人は、高齢者一般で44.6%、要支援認定者で55.5%、要介護認定者で64.5%、これから高齢期で50.3%となっており、いずれの調査でも「在宅医療や介護を希望しない」を上回っている。



②在宅療養が難しいと思う理由

○在宅療養の希望で「在宅医療や介護を希望するが、実現は難しいと思う」および「在宅医療や介護を希望しない」と回答した人の理由は、いずれの調査でも「介護してくれる家族などに負担をかけるから」が最も高く、高齢者一般で67.4%、要支援認定者で61.9%、要介護認定者で65.8%、これから高齢期で67.9%となっている。

(○は3つまで)



③在宅療養生活を継続するために必要なこと

- 要支援認定者では、「24時間365日必要に応じて、定期的かつ随時に、自宅でヘルパーや看護師に食事・入浴などの介助や緊急時に対応してもらえる」(42.4%)が最も高く、次いで「体調急変時に一時的に入院できる体制が整っている」(38.7%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「24時間365日必要に応じて、定期的かつ随時に、自宅でヘルパーや看護師に食事・入浴などの介助や緊急時に対応してもらえる」(44.0%)が最も高く、次いで「家族が理解・協力してくれる」(41.2%)の順となっている。

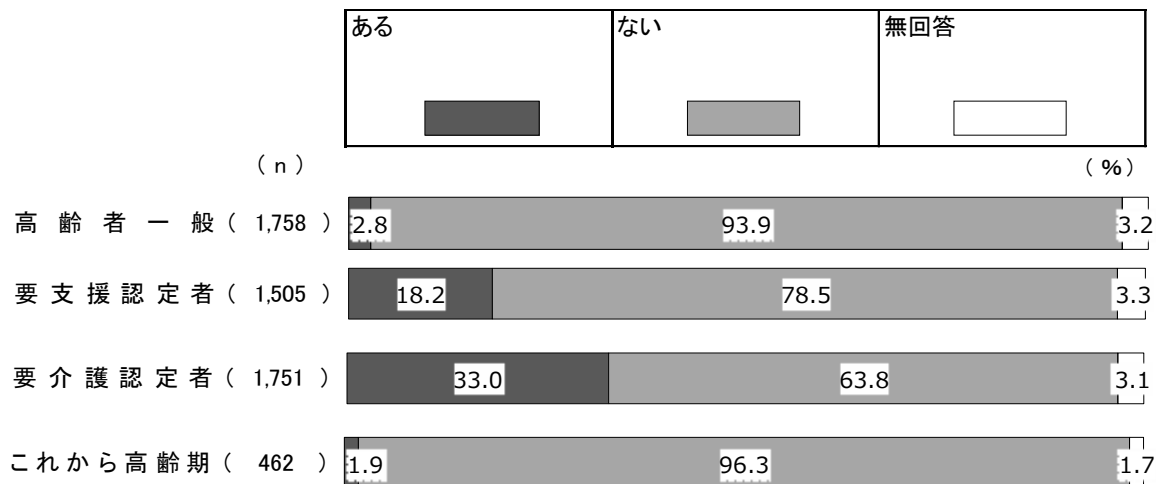
(複数回答)



(4) リハビリ療養

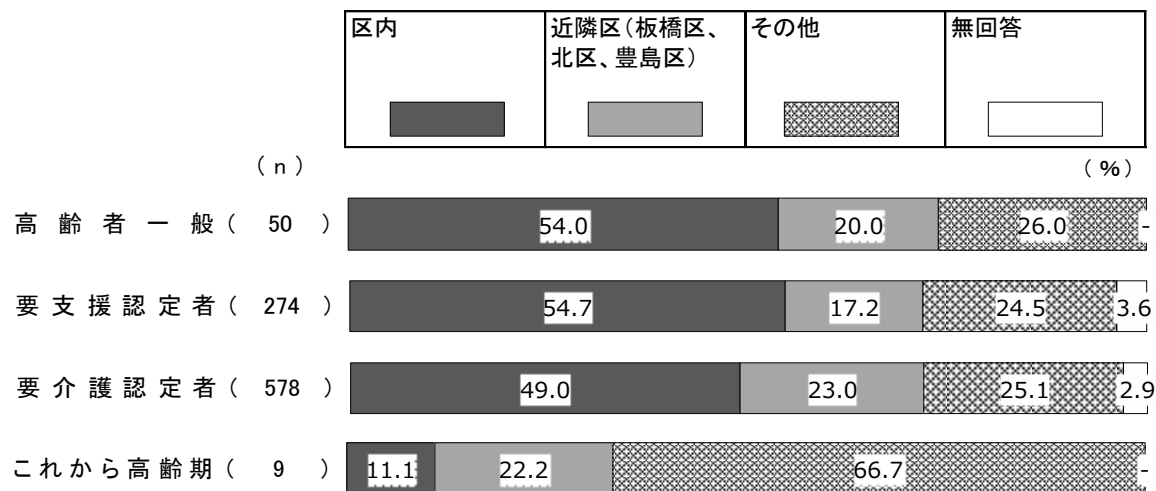
①リハビリ療養目的の入院の有無

○「ある」は、高齢者一般で2.8%、要支援認定者で18.2%、要介護認定者で33.0%、これから高齢期で1.9%となっている。



②リハビリ療養目的で入院した医療機関の所在地

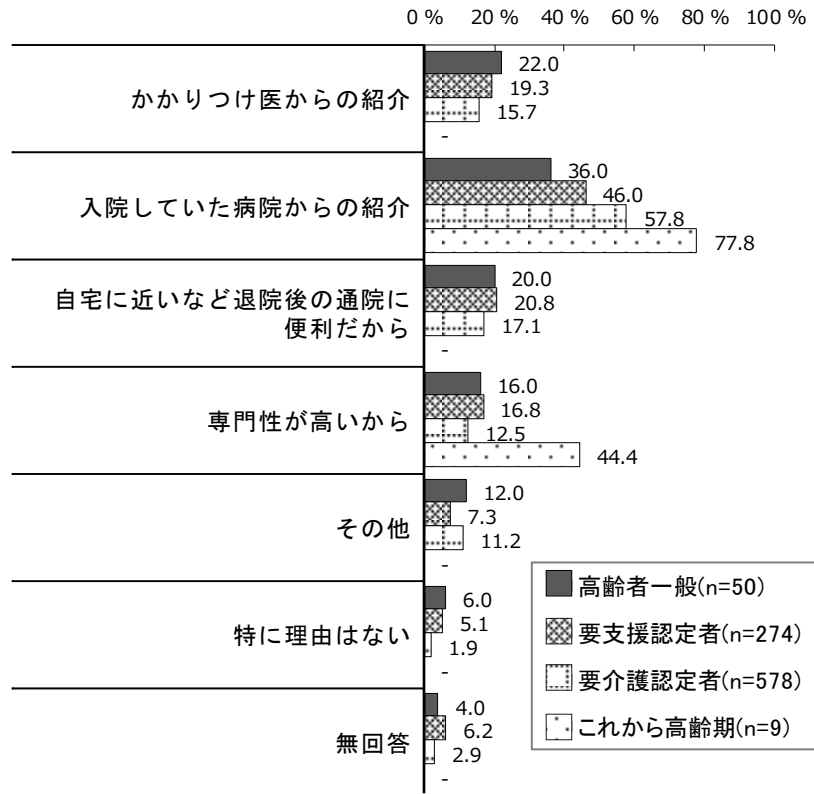
○「区内」は、高齢者一般、要支援認定者および要介護認定者で4割から5割となっている。



③リハビリ療養目的で入院した医療機関の選択理由

○いずれの調査でも「入院していた病院からの紹介」が最も高く、高齢者一般で36.0%、要支援認定者で46.0%、要介護認定者で57.8%、これから高齢期で77.8%となっている。

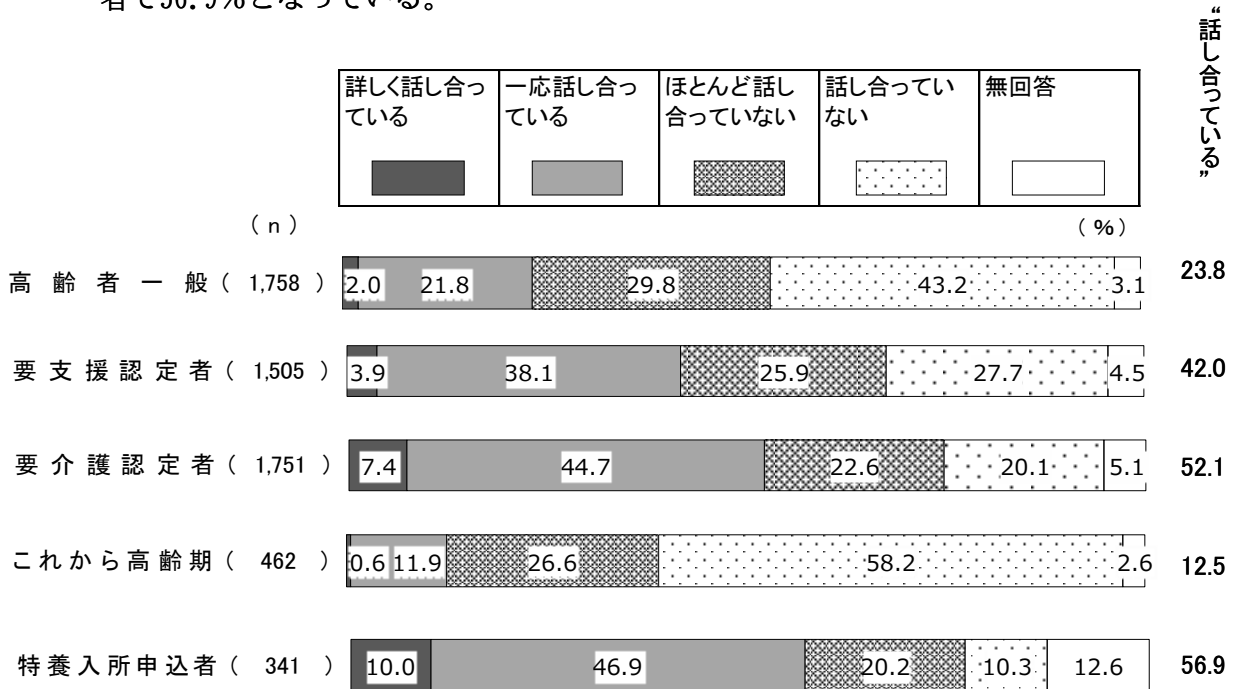
(複数回答)



(5) 人生の最終段階における医療・ケア

①家族や医療・介護スタッフ等との話し合いの状況

○人生の最終段階における受たい医療・介護、受たくない医療・介護について、家族や医療・介護スタッフ等と話し合っているか聞いたところ、“話し合っている”（「詳しく話し合っている」と「一応話し合っている」の合計）と回答した人は、高齢者一般で23.8%、要支援認定者で42.0%、要介護認定者で52.1%、これから高齢期で12.5%、特養入所申込者で56.9%となっている。



[家族や医療・介護スタッフ等との話し合いの状況<年代別(高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者)>]

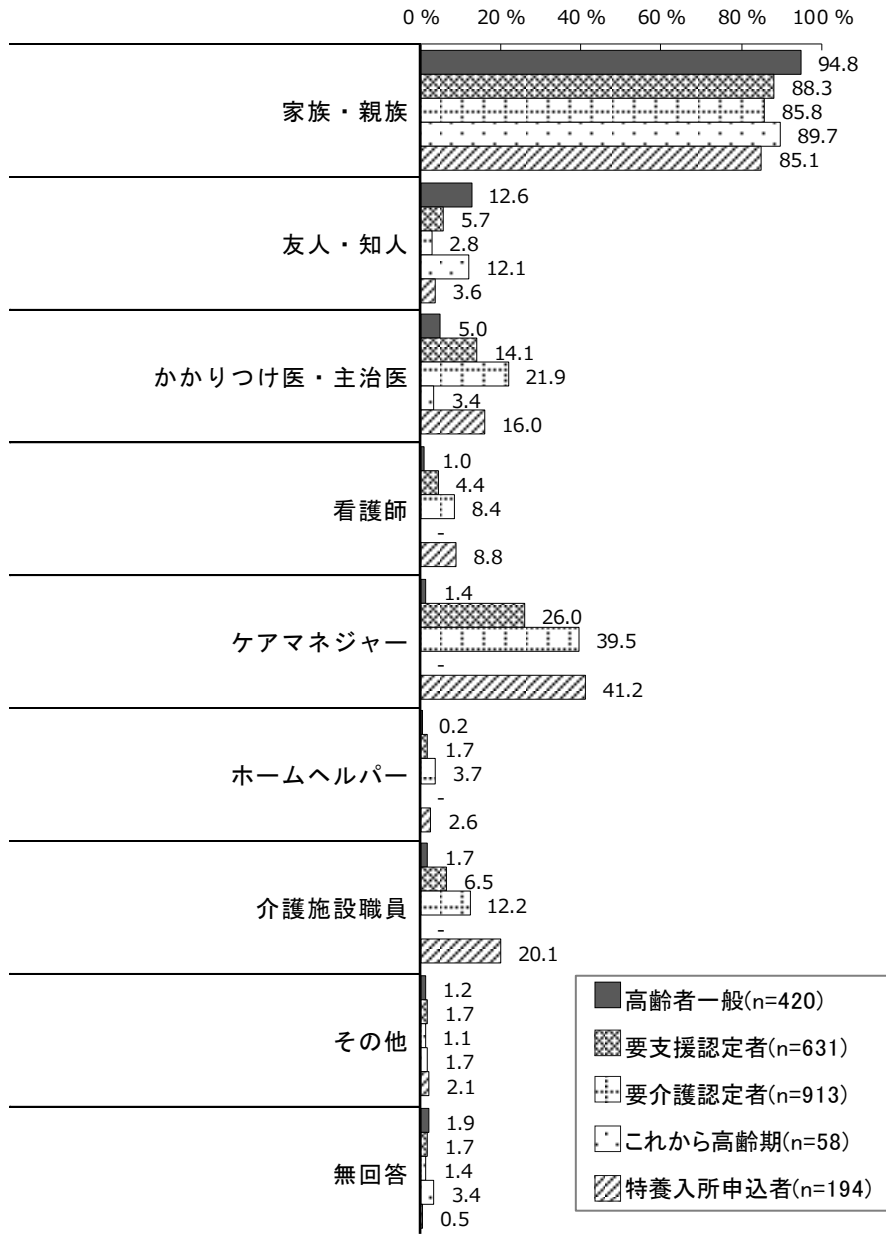
○年代別にみると、高齢者一般、要支援認定者および要介護認定者いずれも、「後期高齢者」は、“話し合っている”が「前期高齢者」と比べて高くなっている。

	n	詳しく話し合っている (%)	一応話し合っている (%)	ほとんど話し合っていない (%)	話し合っていない (%)	無回答 (%)	話し合っている (%)
高齢者一般	1,758	2.0	21.8	29.8	43.2	3.1	23.8
前期高齢者 (65歳-74歳)	648	1.2	18.7	27.8	50.5	1.9	19.9
後期高齢者 (75歳以上)	1,064	2.5	23.8	30.8	39.2	3.7	26.3
要支援認定者	1,505	3.9	38.1	25.9	27.7	4.5	42.0
前期高齢者 (65歳-74歳)	143	2.1	31.5	25.9	35.7	4.9	33.6
後期高齢者 (75歳以上)	1,284	4	39.6	25.9	26.4	4.1	43.6
要介護認定者	1,751	7.4	44.7	22.6	20.1	5.1	52.1
前期高齢者 (65歳-74歳)	150	6	38	23.3	30	2.7	44.0
後期高齢者 (75歳以上)	1,534	7.6	45.4	22.3	19.5	5.3	53.0

②話し合っている相手

- “話し合っている”と回答した人の話し合っている相手は、いずれの調査でも「家族・親族」が最も高く、8割から9割となっている。
- 次いで、高齢者一般およびこれから高齢期では「友人・知人」がそれぞれ12.6%、12.1%、要支援認定者、要介護認定者および特養入所申込者では、「ケアマネジャー」が26.0%、39.5%、41.2%の順となっている。

(複数回答)

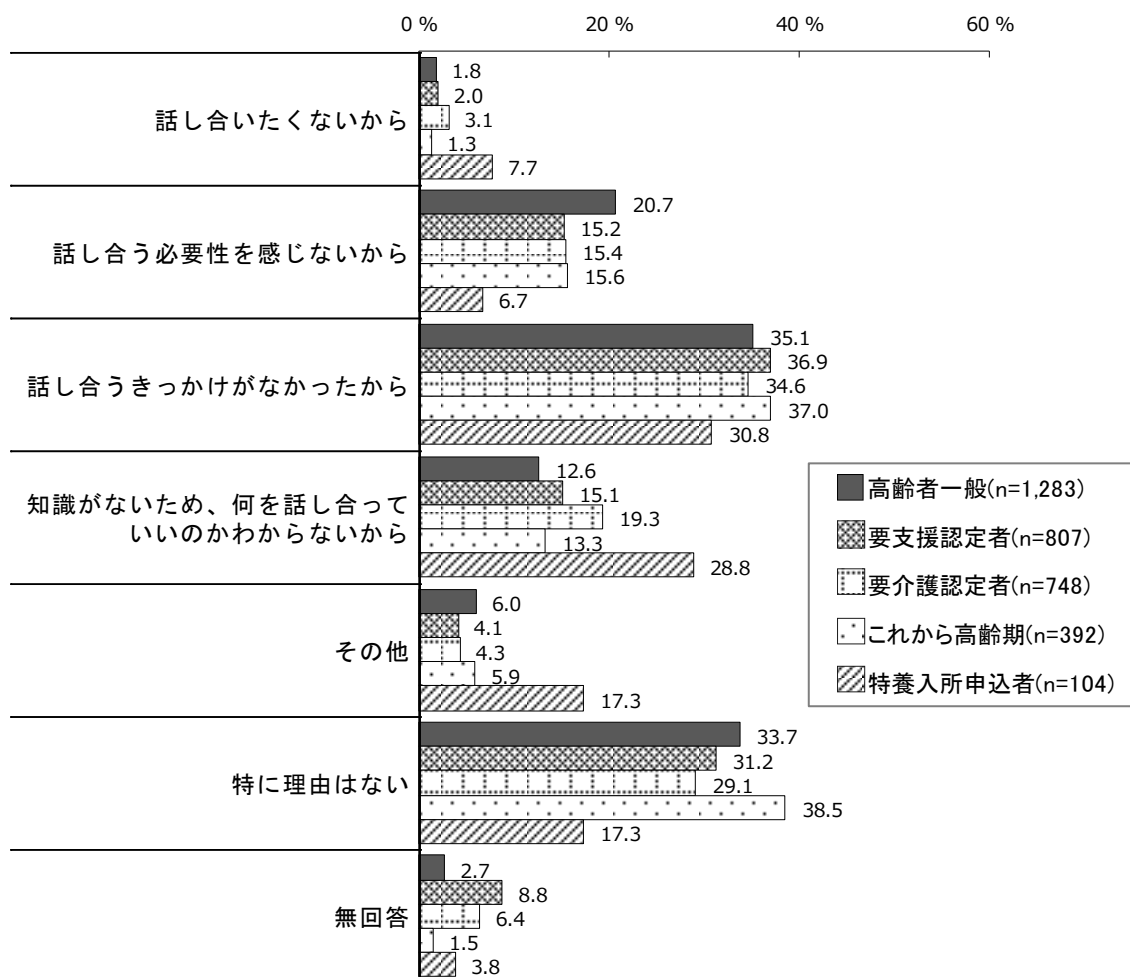


③話し合ったことがない理由

○“話し合っていない”と回答した人の理由は、高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者および特養入所申込者では、「話し合うきっかけがなかったから」が最も高く、それぞれ35.1%、36.9%、34.6%、30.8%となっている。

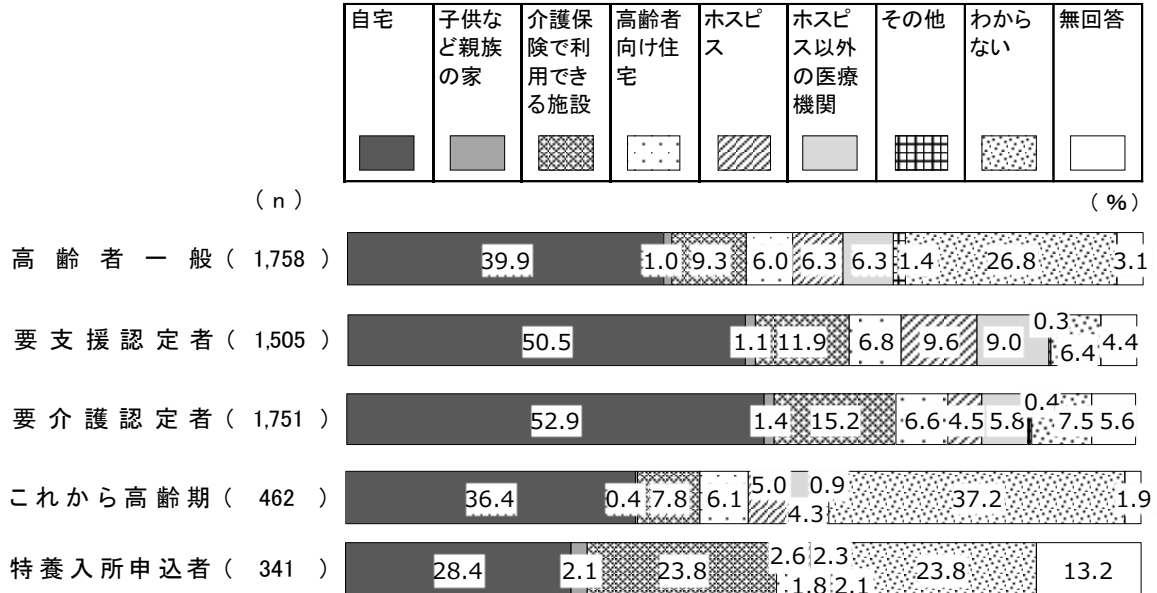
○これから高齢期では「特に理由はない」が38.5%で最も高くなっている。

(複数回答)



④人生の最期を迎えたい場所

- 人生の最期を迎えたい場所は、高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者および特養入所申込者では、「自宅」が最も高く、それぞれ39.9%、50.5%、52.9%、28.4%となっている。
- これから高齢期では、「わからない」が37.2%で最も高くなっている。



[人生の最期を迎えたい場所<世帯構成別(高齢者一般)>]

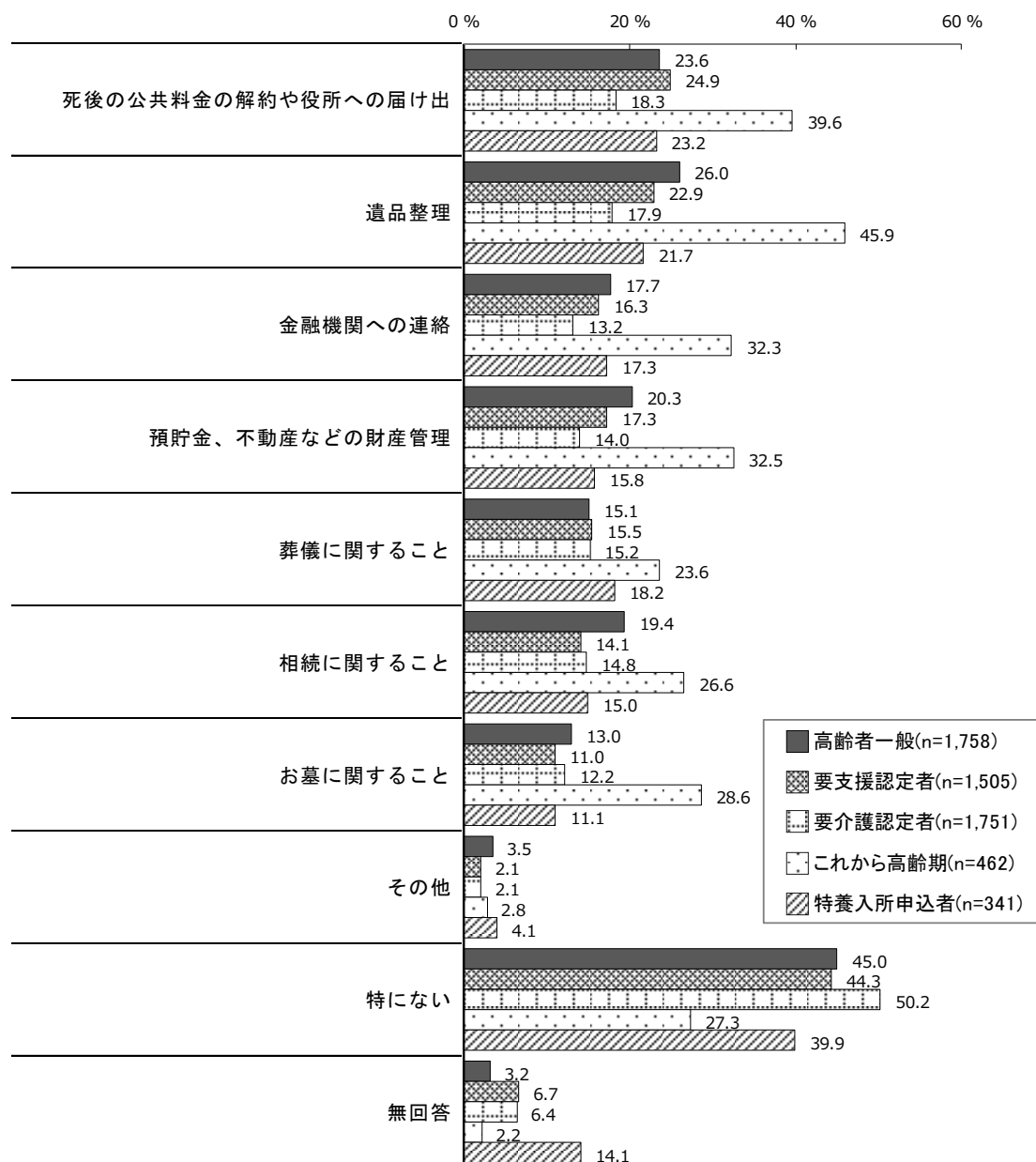
- 世帯構成別にみると、「1人暮らし」は、「自宅」が32.2%で他の世帯構成と比べて低くなっている。

	n	自宅	子供など親族の家	介護保険で利用できる施設	高齢者向け住宅	ホスピス	ホスピス以外の医療機関	その他	わからない	無回答
全体	1,758	39.9	1.0	9.3	6.0	6.3	6.3	1.4	26.8	3.1
1人暮らし	593	32.2	1.3	11.3	8.3	7.4	6.4	1.5	27.0	4.6
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	423	40.7	-	10.4	6.4	7.1	7.3	1.7	25.1	1.4
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	104	44.2	-	7.7	8.7	2.9	3.8	-	30.8	1.9
子との2世帯	334	50.9	1.8	9.0	1.5	5.1	5.7	0.9	24.3	0.9
その他	246	40.2	1.2	4.9	4.9	6.1	5.7	2.0	31.3	3.7

⑤終末期・死後の手続等で不安なこと

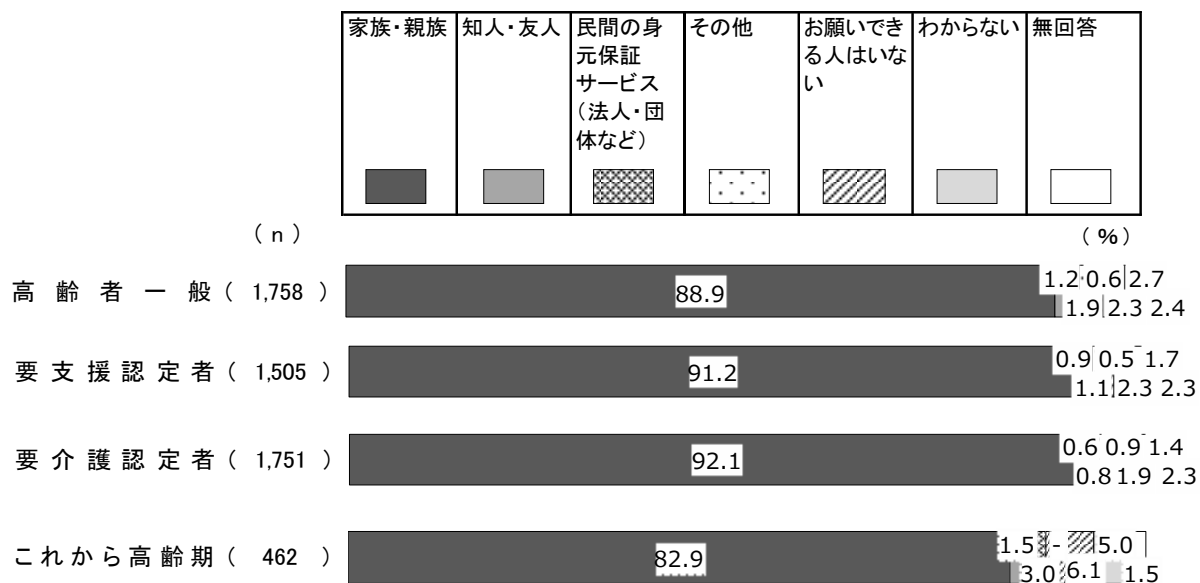
- 高齢者一般では、「特にない」(45.0%)が最も高く、次いで「遺品整理」(26.0%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「特にない」(44.3%)が最も高く、次いで「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(24.9%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「特にない」(50.2%)が最も高く、次いで「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(18.3%)の順となっている。
- これから高齢期では、「遺品整理」(45.9%)が最も高く、次いで「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(39.6%)の順となっている。
- 特養入所申込者では、「特にない」(39.9%)が最も高く、次いで「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(23.2%)の順となっている。

(複数回答)



⑥身元保証人を依頼する人

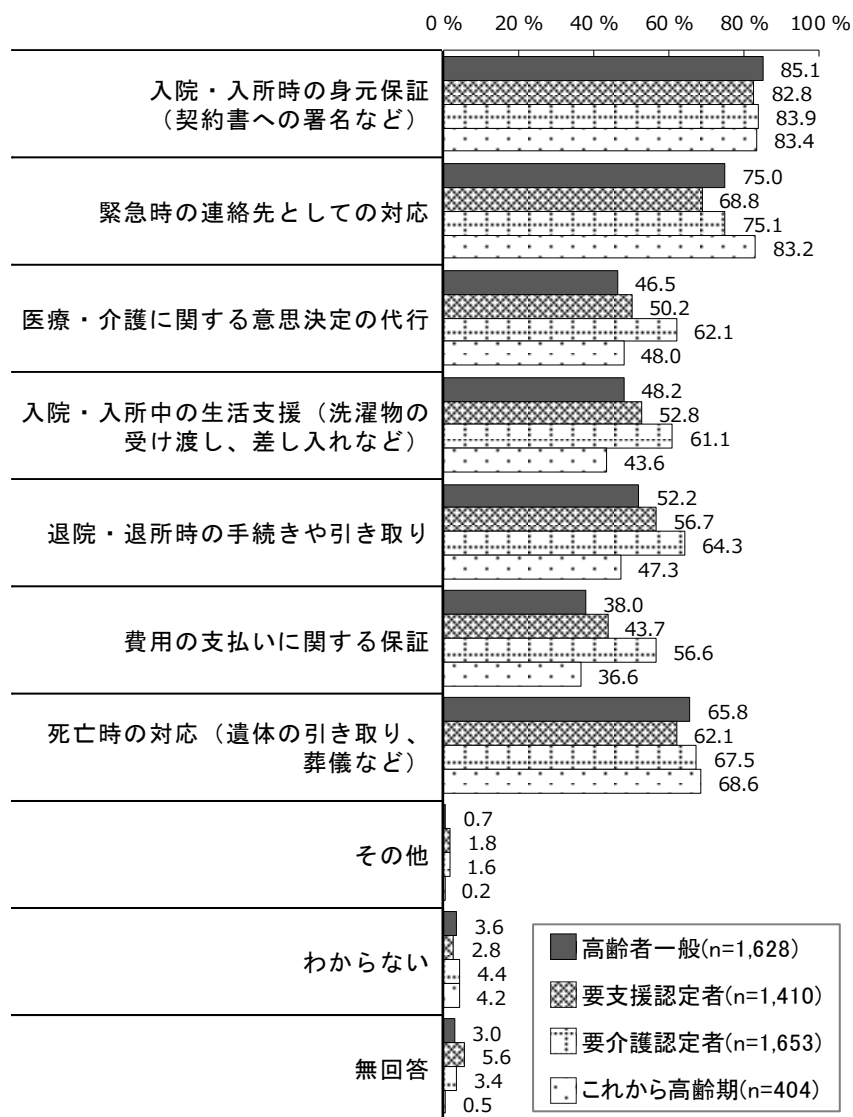
○いずれの調査でも「家族・親族」が最も高く、8割から9割となっている。



⑦身元保証人に依頼したい内容

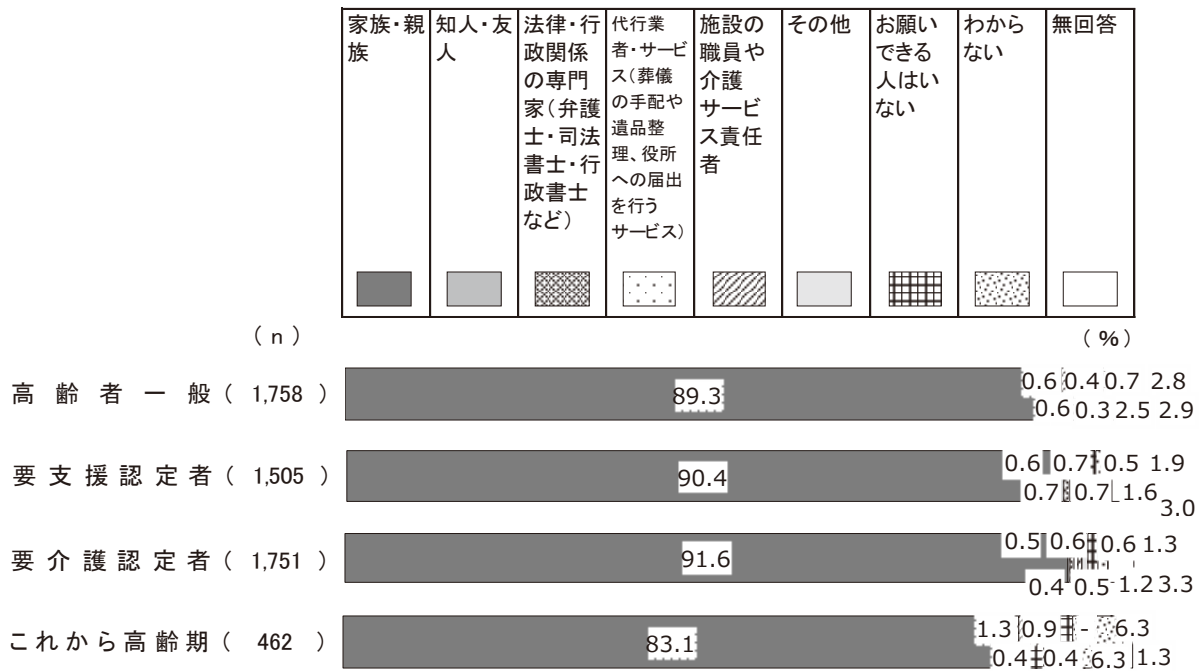
○いずれの調査でも「入院・入所時の身元保証（契約書への署名など）」が最も高く、高齢者一般で85.1%、要支援認定者で82.8%、要介護認定者で83.9%、これから高齢期で83.4%となっている。

(複数回答)



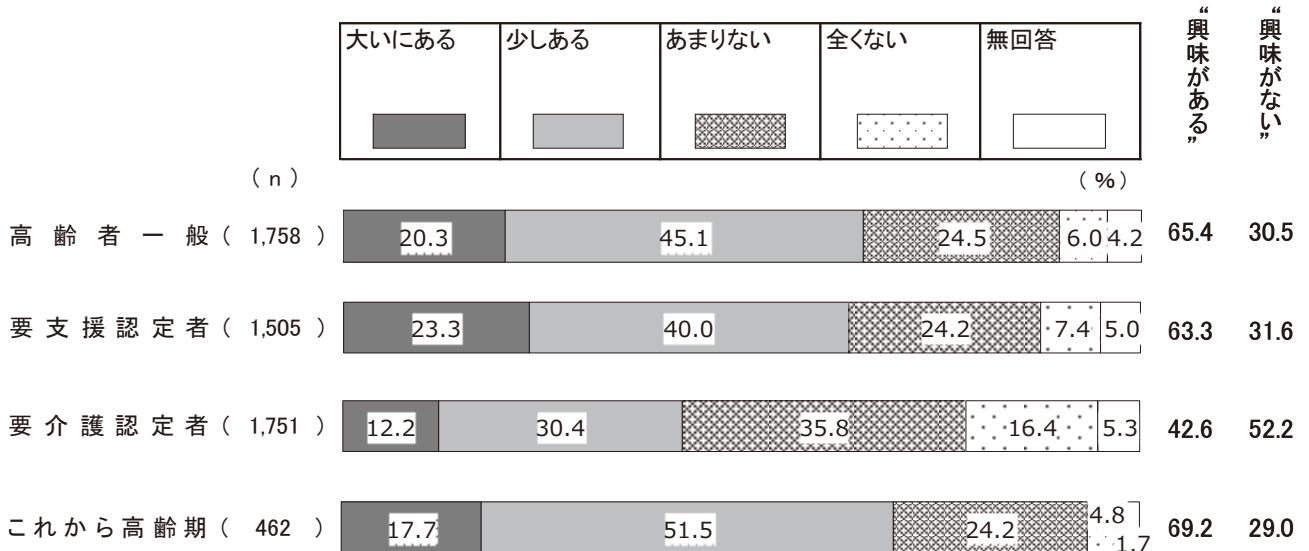
⑧死後の手続きを依頼できる人

○いずれの調査でも「家族・親族」が最も高く、高齢者一般で89.3%、要支援認定者で90.4%、要介護認定者で91.6%、これから高齢期で83.1%となっている。



⑨終活への興味

○“興味がある”(「大いにある」と「少しある」の合計)は、高齢者一般で65.4%、要支援認定者で63.3%、要介護認定者で42.6%、これから高齢期で69.2%となっている。



[終活への興味<経年比較(高齢者一般)>]

○令和4年度の調査結果と比較すると、“興味がある”が4.0ポイント高くなっている。

		(%)						
	n	大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	興味がある	興味がない
令和7年度	1,758	20.3	45.1	24.5	6.0	4.2	65.4	30.5
令和4年度	1,516	17.0	44.5	28.4	6.9	3.3	61.4	35.3

[終活への興味<性・年代別(高齢者一般)>]

○性・年代別にみると、「前期高齢者」および「後期高齢者」ともに「女性」は、“興味がある”が「男性」と比べて高くなっている。

		(%)						
	n	大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	興味がある	興味がない
全体	1,758	20.3	45.1	24.5	6.0	4.2	65.4	30.5
男性・前期高齢者 (65歳-74歳)	294	14.6	47.6	31.6	5.8	0.3	62.2	37.4
男性・後期高齢者 (75歳以上)	392	15.1	39.8	30.9	9.7	4.6	54.9	40.6
女性・前期高齢者 (65歳-74歳)	352	25.3	50.0	18.5	4.0	2.3	75.3	22.5
女性・後期高齢者 (75歳以上)	666	23.0	44.7	21.5	5.0	5.9	67.7	26.5

[終活への興味<要介護度別(要支援認定者、要介護認定者)>]

○要介護度別にみると、「要介護1～2」は“興味がある”が46.1%で「要介護3～5」(38.1%)と比べて高くなっている。

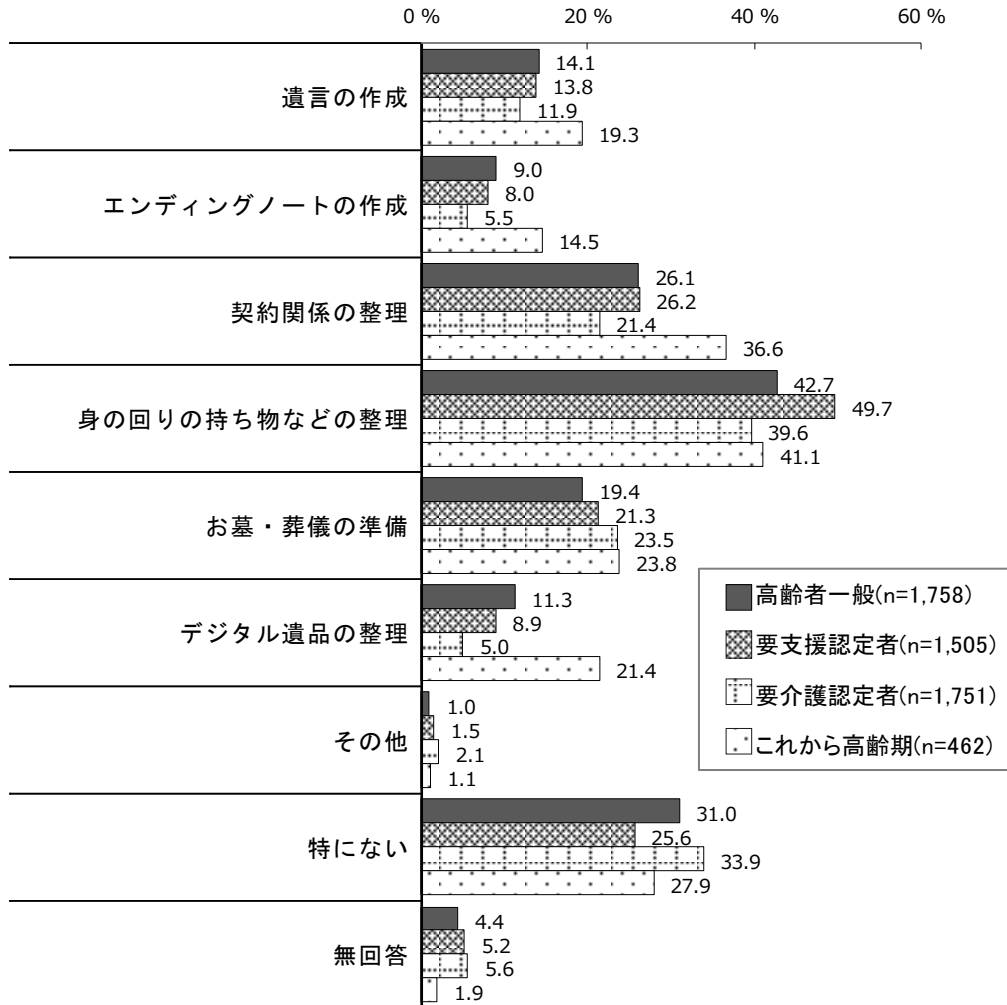
		(%)						
	n	大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	興味がある	興味がない
要支援認定者	1,505	23.3	40.0	24.2	7.4	5.0	63.3	31.6
要介護1～2	986	14.1	32.0	34.9	14.1	4.9	46.1	49.0
要介護3～5	765	9.7	28.4	36.9	19.3	5.8	38.1	56.2
わからない	133	19.5	37.6	24.8	13.5	4.5	57.1	38.3

⑩終活に関して手助けが必要なこと

○いずれの調査でも「身の回りの持ち物などの整理」が最も高く、高齢者一般で42.7%、要支援認定者で49.7%、要介護認定者で39.6%、これから高齢期で41.1%となっている。

○これから高齢期では、「契約関係の整理」が36.6%、「デジタル遺品の整理」が21.4%と他の調査と比べて高くなっている。

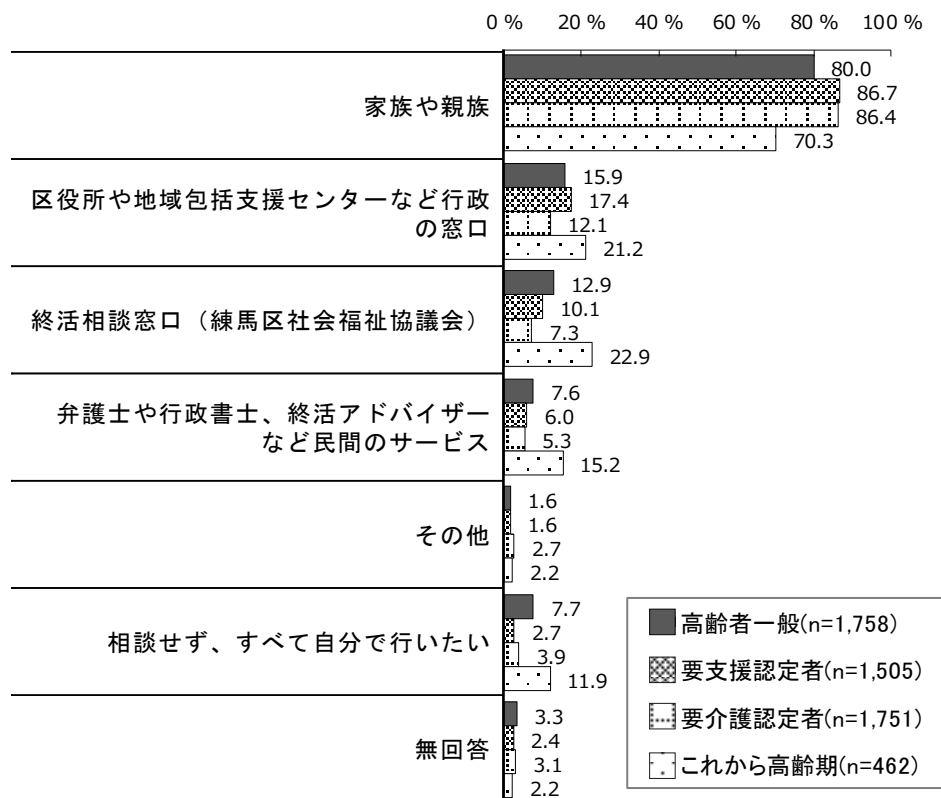
(複数回答)



①終活に関して希望する相談先

- いずれの調査でも「家族や親族」が最も高く、7割から8割となっている。
- これから高齢期では、「終活相談窓口（練馬区社会福祉協議会）」が22.9%、「区役所や地域包括支援センターなど行政の窓口」が21.2%、「弁護士や行政書士、終活アドバイザーなど民間のサービス」が15.2%と他の調査と比べて高くなっている。

(複数回答)



⑫終活に関して区へ求める支援

○いずれの調査でも「専門の相談窓口の設置」が最も高く、3割から5割となっている。

(複数回答)

